

教育長室だより

第 2 号

2018.5.14

暑いのか寒いのか、近年の季節は不規則な変化を見せます。少々不規則でも春の花は律儀に咲き、そして着実に夏が近づいています。子どもさんのおられるご家庭では、学校・園での新しい学年にもすっきりなじんでおられますでしょうか。



先日、中央保育所でお母さん方にお話をさせてもらう機会がありました。子育てのお話です。そのときにお話しした内容の要点だけ、次に書かせていただきます。

【保育所での講話より】

話の内容は大きく分けて次の2つです。

- ①「クウネルアソブ」について
- ②「あいさつ」の本質

「クウネルアソブ」というのは30年ほど前にN社の乗用車のCMに使われたキャッチコピーで、かの糸井重里氏の発案だそうです。「食う寝る遊ぶ」という意味で、「人生をエンジョイする車」というぐらいの宣伝文句だったのでしょう。食べて、寝て、遊んでとなんとも気楽な言葉です。しかし案外この言葉には子育てにとって大切な意味が含まれているように思うのです。



まず、お子様はきちんと「食べて」いますでしょうか。きちんと食べるというのは、食事の際に出されたものを最後まである程度行儀良く食べているかという食事の習慣のことです。これができれば幼児期のひとつの重要な課題をクリアしたと考えていいと思います。意外に難しいのかもしれませんが。これがきちんとできる子はほかのこともできるようになると思われます。



次にしっかり「寝て」いますかということです。ほぼ決まった時間に寝て、自分で起きる。これがなかなかの難題かもしれません。よく言われる「早寝早起き朝ご飯」ですが、夜更かしの習慣を直すのであればまず「早寝」から始めようとしてもこれは難しい。まずは「早起き」です。決まった時刻に少

々無理にでも起こすことです。これを続けるとそのうち「早寝」の習慣も身につきます。早起きできれば朝ご飯がしっかり食べられます。体にも心にも頭にも大変良い習慣が身につきます。



最後に「遊ぶ」です。保育所や幼稚園では遊びこそが学びとなっています。無心に遊びに没頭するということ、これが将来の学校での学びの大切な芽となるということは従来から言われています。安心して遊びに没頭できる時間が十分にあることがこの時期の子どもにどれだけ大事かということです。

平安末期の歌に「梁塵秘抄」というのがあり、その中の有名な一節に「遊びをせんとや生まれけむ」というのがあります。(子どもは)遊ぶために生まれてきた、という意味です。千年以上前の人々も子どもにとって遊びがどれだけ大事かということを見抜いていたのでしょう。

ただ、欲を言えば、自然の中で土や砂、草や木、虫や動物と関わって遊ぶ時間がある程度ほしい。「人が作ったものでないものを一定時間眺めるのが脳にとって良い」ということをベストセラー『バカの壁』で有名な脳外科医、養老孟司さんは言っています。

【子どもの読書と図書館の利用について】

藍住町の各小学校では子どもたちの身近に本のある環境づくりを長年進めてきました。具体的には

○ 学年図書 of 整備

学校の図書室から各学年に適した本を各学年のワークスペースに設置した本棚に置く。教室にも一定数の本を置いて休み時間にも手軽に本を手にとれるようにするためです。

○ 保護者による町立図書館の本の団体貸し出し

どの学校もPTAの学年役員の方々が、図書館員とも相談の上その学年に合った図書をまとめて借り出して、学年のワークルームに置いています。

○ 校区ごとの資源ゴミ（主に古紙）回収

年3回、徳島新聞社の販売店さんのご協力で故紙回収を行っています。集まった古新聞や雑誌、書籍、段ボールなどは回収業者に引き取ってもらい、その収益は基本的には校区の幼稚園・小学校の図書の購入に充てるということになっています。



おかげさまで町内の幼稚園・小学校には図書室だけでなく身近なスペースにたくさんの本のある環境ができています。

また、各園、校にはそれぞれ読み聞かせグループが結成されており、毎週1～2回、朝の読み聞かせの活動を行ってくれています。



藍住町の子どもたちは読書に関して恵まれた環境であるといえます。一つ気になることは、町立図書館の利用が比較的少ないということです。単に本を読むだけでなく、多くの図書に囲まれた場所で、自由に好きな本を手にとれる図書館の魅力を感じるということも大事だと思います。ここで町立図書館の昨年度行ったイベントを紹介します。

【藍住町立図書館のイベントの紹介】

H.29年度実施したもの

廃棄雑誌提供・夏休みお楽しみ会（人形劇）・夏休み工作教室（牛乳パックでつくる新作貯金箱）・「読んでみる？みんながすすめる本～とくしまも子どものためのブックリスト100掲載本」・第2回藍の花朗読会・「とくしま わたしのこの一冊」展・「読み聞かせボランティア講習会」・「戦後の社会科で何を学んだか」・和紙ちぎり絵作品展・英語絵本を Read Aloud！・「村山いさを 心字」展・いのち展「ぼくのいのち・わたしのいのち」展・春休みおりがみ教室

今年度も多くの行事を計画します。近づいたら案内しますのでふるってご参加ください。

定期的な行事

毎週日曜日：おはなし会
第2・第4水曜日：あかちゃん絵本の読み聞かせ会
年4回：あいずみ読書会
第2・第4火曜日：朗読を楽しむ会

15万冊近い図書を備える藍住町立図書館は県下でも有数の図書館です。

ぜひ子どもたちに図書館というところの魅力を味わっていただき、それぞれの興味・関心を広げていってほしいと思います。

とてもいい心や頭の栄養になるはずです。